

日南町で活躍する

若手世代の対談

—10年先のまちづくりを見据えて—

地域を取り巻く環境が変わる中、これまでと同じ形で地域づくりを行うことが難しくなっています。

これからの日南町には、どんなつながりが必要なのでしょう。地域に関わる4人が、それぞれの立場から抱負を述べました。

「いつあるべき」から「やりたいがやれるまち」へ

本城…式典の中で、多里まちづくり推進協議会の発表にあった「これからは『この指止まれ』で、やりたい人がやる仕組みが必要では」という言葉が印象に残っています。まち協の負担は軽くしながらも、ゆるくてもつながっていられる地域を作ることが、これからのまちづくりのあり方だと思いました。

恵比奈…多里では大学生のボランティアなど、いろいろな人に協力してもらいながらイベントを行っています。一方で、特定の人に負担が集中していることは課題だと思っています。

作道…「強いコミュニティ（人々の集まり）」が理想で、それがなくなったら駄目だという見方からは、少し離れてもいいのかもしれないですね。

坂本…今までと同じ運営方法やイベントの規模感で続けるのは難しいと思います。今の人口や生活スタイルに合わせていく必要があります。

日南町の未来を描く

本城…ずっとここに住んでいる人の生活を守りたい。地域で住み続けられる、毛細血管のように町の隅々までつながった地域が理想です。

恵比奈…県外に出ていたとき、日南町の情報に触れられず寂しかったことを覚えています。外に出たからこそ感じた故郷の大切さを、役場職員としてこれからも守り、発信していきたいです。

作道…日南町には「足るを知る」、「ゆるく生きていく」というマインド（意識や考え方）がある。実はそれは「新しい生き方」なのかもしれません。定住だけでなく、人生の一つのステージとして日南町を選んでもらえる環境を整えることも大切だと思います。

坂本…日南町への愛着があっても、仕事の選択肢が限られていることが、帰ってくる難しさの一つだと思います。帰りたいと思ったときに、仕事や暮らしの選択肢がある町であってほしいです。

「強くつながる」だけが、地域じゃない

4人の話から見えてきたのは、地域のつながり方を一つの形に決めるのではなく、人それぞれの距離感で関われる地域の姿です。

「この指止まれ」で始まる小さな活動も、離れていても故郷を思う気持ちも、日南町で「ゆるく生きる」という選択もあります。

一人ひとりの思いを大切に、10年後、20年後の日南町とともに創っていきましょう。



さくどう 作道
うた 雅樂

愛媛県松山市出身。明治大学農学部修士2年生。半学半地域おこし協力隊として町内で活動しながら、空き家や耕地資産、地域幸福度に関する研究に携わっている。



ほんじょう 本城
ひより

兵庫県宝塚市出身。鳥取大学農学部修士2年生。半学半地域おこし協力隊として町内で活動しながら、住民の地域参加や行政支援のあり方について研究している。



えひな 恵比奈
さ ら 紗良

日南町霞出身。役場住民課で税金や医療保険を担当するほか、多里の地域担当職員としてイベントなどに参加している。日南町の好きなところは、人と自然が寄り添いながら暮らしているところ。



さかもと 坂本
けい と 敬人

日南町印賀出身。役場地域づくり推進課で地域振興センターの管理を担当するほか、大宮の地域担当職員としてイベントなどに参加している。

